

第1回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日 時 令和6年6月7日（金）
開会 14時45分 閉会 16時00分

2. 会 場 市民交流センター4階・視聴覚室

3. 出席者 塩竈市長 佐藤 光樹
教育庁 黒田 賢一
教育長職務代理者 高橋 輝兆
委員 松田 攝子
委員 佐藤 香
委員 菅井 信吉

(事務局)

総務部長	本多 裕之
総務部政策調整管理監	布施 由貴子
総務部政策課長	引地 洋介
教育部長	末永 量太
教育部次長兼教育総務課長	櫻下 真子
教育部参事兼学校教育課長	松崎 和佳子
教育部生涯学習課長	郷古 勝浩
教育部教育総務課教育総務係長	鈴木 亮平
教育部学校教育課学校教育係長	津田 康之

4. 次 第 (1) 説明：学校規模の適正化等に向けた取組について
(2) 協議（意見交換）

5. 概要

○開会

○市長あいさつ

○議事

（１）学校規模の適正化等に向けた取組について

会議資料に基づき、松崎学校教育課長から「学校規模の適正化等に向けた取組」について説明。

（２）協議（意見交換）

【主なもの】

〈松田委員〉本市の子どもたちはのびやかに育っており、また、幼児教育と義務教育の連携が図られていると考えるが、発達障害や不登校などの課題は存在する。ひとり一人としっかり向き合っていくことが大切。学校施設の老朽化が著しいと考える。予算が限られていることは十分理解しているが、子どもたちには適切な環境で学んで欲しい。

〈佐藤市長〉老朽化が著しい施設で学ばざるを得ない状況については、大変申し訳なく思っている。長寿命化改良事業を行っているが、すべての学校で行った訳ではない。学校施設の老朽化は勿論のこと、給食センターがないことも課題と捉えている。施設全体の老朽化に対応するためにも「学校規模の適正化等を進めていくこと」が必要であると考えている。

〈黒田教育長〉本市教育を取り巻く環境には様々な問題・課題があるが、学校規模の適正化に向けた議論をとおり、優先順位を付け、着手出来るところから着手出来れば…と考えている。

〈松田委員〉給食センターはどうなっているのか。

〈佐藤市長〉学校施設だけでなく、本市が所有する施設は一律に老朽化が進んでおり、その対応に苦慮している。現状に鑑みれば、新たに建設することは難しい。もっと以前に検討・対応すべき事案であったと考える。

〈高橋教育長職務代理者〉規模の適正化等に係る検討を進めることに関し、個人的には賛成である。人口減少社会を見据えた場合、現状のままでは「学校だけでなく、塩竈市自体の存続が難しい」と考える。これからの本市学校教育の方向性を議論するための「たたき台」となる方針（案）に対し、様々なご意見が寄せられると思うが、「木を見て森を見ず」といったことにならないよう注意して欲しい。

〈佐藤市長〉方針（案）を策定するにあたり、「子どもを最優先に考えること」が重要であると認識している。検討委員会に諮問し、学識経験者らに調査検討していただく目的は「子どもを最優先に考えた方針（案）」とするためである。

〈高橋教育長職務代理者〉規模の適正化を進め、「子どもたちに投資出来るお金」を増やしていただければ…と思う。

現状の問題に目を向ければ、医療的ケアが必要な子どもが市内2つの学校に入学している。看護師が常駐しているが、看護師の人数も減ってきている。保護者の「学区内にある学校に入学させたい」という気持ちは十分理解出来るが、コスト面を考えれば、学区内にある学校でこのような子どもを受け入れ続けることは難しいと思われる。

規模の適正化と直接関係するものではないが、頭の片隅に入れておいて欲しい。

〈佐藤市長〉 ご意見は真摯に受け止めたい。医療的ケアが必要な子どもの受け入れは、高度な知見を要する案件である。引き続きご意見を伺ってまいりたい。

〈佐藤委員〉（規模の適正化と直接関係するものではないが）幼稚園に入ってきた子どもたちに対し、「（排尿などの）基本的な生活習慣」から教えているのが現状。年長の園児のなかには「小学校に入学出来るほど成長していない子ども」もいる。先生方のご苦労には頭が下がる思い。

〈佐藤市長〉 本で行われた植樹式で4年生の子どもたちと触れ合った。子どもたち一人ひとりに特性があること感じるとともに、先生方の変革を改めて認識した。どこまで出来るかは分からないが、規模の適正化等に係る検討を進めるなかで「特性を持った子どもへの対応」も検討していただければ…と考える。

余談だが、コロナ関連の予算を活用し、保育園施設内にあった段差を解消したところ、先生の手を借りないとトイレに行けなかったお子さんが自分でトイレに行けるようになった。成長のきっかけはひとり一人異なる。ひとり一人に向き合い、出来ることから始めたい。

〈菅井委員〉 市民が「規模の適正化等を検討している」と聞いた場合、再編や統廃合などをイメージしやすく、ネガティブに捉えられかねない。説明を十分に尽くして欲しい。また、令和6年度末までに方針（案）を策定することだが、成案化までのスケジュールはどのように考えているか。

〈佐藤市長〉 地域やOB・OGの皆さまのなかにはネガティブに捉える方もいらっしゃるかもしれないが、各校PTA役員の皆さまにお話を伺った限りでは「致し方ないこと」と捉える方も多かった。隠すような情報ではない。方針（案）を策定次第、各町内会に出向き、様々なご意見を頂戴したい。

成案化までのスケジュールは未定であるが、長い期間をかけるつもりはない。1～2年で成案化するのは難しいと考えるが、期間をかけすぎてタイミングを逃すこともある。本市を取り巻く状況・環境を分析し、適切に対応したい。

○閉会